

東京大学釜石カレッジ 連続公開講座

1. 概要

釜石市と東京大学は、平成 24 年 10 月に「東京大学釜石カレッジ開設に関する覚書」を締結し、釜石市のまちづくりの推進と産業等の復興を支える新たな人材育成の場として、「東京大学釜石カレッジ」を開設しました。

昨年度に引き続き本年度も、東京大学経済学部と社会科学研究所が中心となり、『三陸経済の復興に向けてパートⅡ』として連続公開講座を開催します。

2. 内容

● 第 1 回『水産業の現状と課題』

開催日時：平成 25 年 7 月 4 日(木) 午後 6 時～8 時

講師：高井紘一郎 氏（元アサヒビール工場長）

司会：新宅純二郎（東京大学経済学部教授、ものづくり経営センター）

(概要)日本の漁業は、昭和 59 年から数年間は世界一の生産量を獲得するも、乱獲や 200 海里の排他的経済水域の設定により、現在ではピーク時の 4 割位の生産量にまで減少。これまでに至る水産業を取り巻く状況や課題に対する解決法について考察する。



講義に先立ち、若崎副市長にご挨拶いただきました。



講師の高井先生



国友研究科長による開講のご挨拶

● 第2回『住宅産業と三陸地域』

開催日時：平成25年7月29日(月) 午後6時～8時

講師：佐々木宏氏（住宅生産団体連合会・専務理事）

能勢秀樹氏（住宅生産団体連合会・住友林業）

司会：国友直人（東京大学経済学部長）

（概要）

前半は佐々木氏から『住宅産業の現状と動向～環境問題への対応を中心として』というタイトルで講演していただきました。住宅およびそこで暮らす家庭のエネルギー消費の現状と、今後の省エネ対策についてのお話があり、また寿命が短いと言われる日本の住宅を長寿命化させる取り組みについても触れられました。東日本大震災で被災された方が多い釜石において、「被災はつらい経験だが、今後新しい住宅を建てるのも楽しみにしている。長く住める家を建てるにはどうすればよいか？」といった参加者の声もあり、被災地の復興にむけた有意義な講演になりました。



前半の講師を務めた佐々木宏先生

後半は能勢氏から『林業を日本の成長産業へ』というタイトルで、コスト・人材など多くの点で厳しい問題を抱えている林業をいかにして成長産業にしていくかについて、講演していただきました。今後世界的に木材需要は高まるため、日本は木材輸出に積極的に投資すべきである点と、東北の山林は日本の急峻な地形のなかでは比較的なだらかで、国内外へ搬出できる港もあり地理的に優位であることが紹介されました。東北の森林が復興および経済発展につながる大きな可能性を持っていることを感じさせる講演でした。



後半の講師を務めた能勢秀樹先生



多くの方にカレッジに参加していただきました。

講師の講演の後は質疑応答の時間を設け、質問・議論が寄せられました。

● 第3回『震災復興と三陸経済』～阪神・淡路大震災からの教訓を踏まえて～

開催日時：平成25年8月22日(木) 午後6時～8時

講師：林 宜嗣 氏（関西学院大学経済学部教授）

司会：持田信樹（東京大学経済学部教授）

（概要）

『復興への道のり～これからの自治体のありかたを考える～』というテーマのもと、前半は林先生も実際に体験された阪神淡路大震災の教訓から、いま三陸がとるべき道についてお話いただきました。また後半は、三陸にとどまらず日本全体の地方自治体が抱える課題を踏まえ、日本全体が成長を続けるための自治体のありかたについてお話いただきました。

講演の最後には林先生のお話を踏まえ、若崎副市長から釜石の復興にむけた力強いお言葉もいただきました。



阪神淡路大震災のご体験や教訓、今後のあり方について講義される、講師の林宜嗣先生



若崎副市長からも復興に向けた力強いお言葉をいただきました。



多くの方にカレッジに参加していただきました。講師の講演の後は質疑応答の時間を設け、質問・議論が寄せられました。